

令和3年度 香川短期大学 学校推薦型選抜後期

『小論文』問題用紙

令和2年12月6日

多くの人々が「正しいことだ」「理想だ」と考えることであっても、実際にはそのようにはならず、実現することの難しいことが少なくない。例えば、森林保護などの自然環境の大切さは多くの人々が認める場所であるが、そこに住んでいる人々のことを考えると、生活の糧となる熱帯雨林の伐採を止めることは簡単ではない。原子力発電の危険性は誰もが認める場所であるが、かといって火力発電だと二酸化炭素を排出するので、地球温暖化の防止という点からは問題が生じる。そうすると、太陽光発電などの自然エネルギーの再生に期待が集まるが、現状では安定的なエネルギー供給としてはまだまだ課題がある。このような中で、現在の快適な暮らしを維持しようとするならば、原子力発電を容認せざるを得ない。

フランスには、「思いやりは友をつくるが、真実の言葉は敵をつくる」という諺がある。これは正しいことだと思って、他者に「正論」を吐くと、時として二人の関係が悪化し、敵対する関係に陥る場合があることを伝えている。言われていることが正しいとは分かっているけどもできない、感情的に納得できない、自己の利益が脅かされるなど理由は様々であるが、このような「正論」への反発は日常生活の中でしばしば見受けられる。

「正論」とは、文字通りに解釈すれば、理にかなったまっとうな論である。そして、「正論を振りかざす」とは、誰もが納得せざるをえないような、理にかなった主張することである。だから皆が受け入れるかという点、そうでもない。人の考え、立場は様々なので、「正論」の押しつけが自己中心的であり、時にはハラスメントにつながりかねない。さらに、現代のような価値の多様化した社会では、何が「正論」かさえもわからなくなり、自己の「正論」を主張することが、他者からの反発を招きやすいのである。

設問

「正論」を題材として、小論文のタイトルを考え、あなた自身の経験も踏まえて800字以内で小論文を作成しなさい。

受験番号	
------	--

令和3年度 香川短期大学 一般選抜後期

『小論文』問題用紙

令和3年3月11日

人工知能（AI=Artificial Intelligence）の進化がめざましい。これまでのスーパーコンピュータは人間が設定したプログラムに従って、大規模な数値演算を超高速に処理することができた。例えてみると、人間の手だと百万年かかる計算を数十秒でこなしてしまうような、とてつもなく速い計算ができる点に特徴があった。これに対してAIの凄さは単にプログラムに従うのではなく、本当に学習することである。

これをボードゲームのチェスや将棋で考えてみよう。スーパーコンピュータは、数十手先のすべての手について高速で計算することができる。これに対してAIは勝つために有効な手を数通りに絞り込み、その中からどれを採用すれば勝ちに近づくのかを解析し、学習する。勝つ手を学び、強くなり続けることができるのである。そして、有効手の絞り込みは、まさに人の直感力に似ている。

圧倒的なデータ解析力に加えて、直感やひらめきまで持ち合わせようとしている人工知能と、それを社会の実作業に還元するロボットがそのまま進化していくと、どんな未来になるのだろうか。例えば、現在人間が行っている仕事の半分以上は、人工知能やロボットが行うようになるかもしれない。他方で、進化した人工知能やロボットに頼りすぎることによって、人間の未来に重大な危機が迫ってくることはないのだろうか。

設 問

AIやロボットがさらに進化していく将来において、私たちがこれから仕事をする上で身につけなければならない力は何だと考えますか。あなたが就きたい職業分野の展望やこれまでの経験を含めて、タイトルを考え、800字以内で小論文を作成しなさい。

受験番号	
------	--